

2022年6月1日

2022年度第38回電気通信普及財団賞
(テレコム人文学・社会科学賞、テレコムシステム技術賞、テレコム学際研究賞)
対象研究論文・著作等募集要項

1. 電気通信普及財団賞の趣旨

情報通信の普及、振興、発展に貢献する優れた情報通信に関する研究論文・著作等（人文学・社会科学分野、技術分野及び両分野にわたる研究）を、テレコム人文学・社会科学賞（人文学・社会科学分野）、テレコムシステム技術賞（技術分野）及びテレコム学際研究賞（両分野にわたる研究）として表彰し、その功績を顕彰します。

2. 電気通信普及財団賞表彰応募の対象

（学生賞については別途応募要項がありますので、そちら¹をご覧ください。）

(1) 表彰部門及び対象となる研究論文・著作等

① テレコム人文学・社会科学賞

情報社会の進展や情報化が人間や社会に与える影響など、情報通信と法律、経済、社会、文化等との関係等について、人文学・社会科学的な観点から研究したもので、原則2021年1月1日以降に出版された著作、学術誌に掲載、又は国際会議などで発表された研究論文等を対象とします

② テレコムシステム技術賞

情報社会の進展に貢献する情報通信技術の開発、応用等について技術的、工学的観点から研究したもので、原則2017年1月1日以降に学術誌に掲載、又は国際会議などで発表された研究論文、出版された著作等、及び原則2012年1月1日以降に採択された情報通信に関する国際標準のもととなった研究論文または寄与文書を対象とします。

③ テレコム学際研究賞

情報通信に関する人文学・社会科学分野と技術分野の両分野にわたる研究を行ったもので、原則2021年1月1日以降に出版された著作、学術誌に掲載、又は国際会議などで発表された研究論文、及び原則2012年1月1日以降に採択された情報通信に関する国際標準のもととなった研究論文または寄与文書を対象とします。

※ テレコム学際研究賞は、人文学・社会科学賞やシステム技術賞には応

¹ 学生賞応募要項 URL。 <https://www.taf.or.jp/award/>

募しづらい中間領域のテーマや、技術の社会実装における政策課題、社会的に認知されていない課題を問題提起するような研究テーマの応募も期待するところです（別添「電気通信普及財団賞 テレコム学際研究賞の応募テーマ例」を参照してください）。

(2) 応募の対象者

研究論文・著作等の著者の方（著者及び共著者の方）
若手研究者の方の研究活動に着目するようにしています。

(3) 表彰金及び件数

テレコム人文学・社会科学賞、テレコムシステム技術及びテレコム学際研究賞のそれぞれについて、

- ① 入賞 5 件以内（賞金各 100 万円）
- ② 奨励賞数件程度（賞金各 50 万円）
- ③ きわめて優れた著作・論文等に対する特別賞（1 件につき 200 万円）を授与します。

3. 募集期間

2022 年 6 月 1 日～2022 年 9 月 30 日午後 5 時まで

4. 応募方法

電気通信普及財団賞に研究論文、著作等を応募される方は、事前エントリーして、受付番号を取得したうえで、必要書類を以下の要領で電気通信普及財団賞事務局あてに提出してください。

(1) 必要書類

① 応募用紙（PDF の改変不可）（注）

- ・テレコム人文学・社会科学賞
- ・テレコムシステム技術賞
- ・テレコム学際研究賞

（注）該当する応募用紙に必要な事項をご記入の上、PDF 版の応募用紙を専用ページ（<https://www.icr.co.jp/taf/entry.html>）から事前エントリーし、受付番号を取得してください。

② 応募作品（論文、著作）2 部

③ 本文要旨（800 字以内、様式任意）

④ 推薦書（任意、著者以外からの推薦）

※ 推薦者の了解を得ている場合は、押印省略可とします。その場合、財団事務局より推薦者に連絡の上、推薦意思を確認します。

⑤ 応募者の既発表論文リスト（任意）

⑥ 採録通知（掲載予定の論文。書籍については、本財団賞締切日までに出版されているものを対象とします。）

(2) 提出方法

・事前エントリー後、下記あてに郵送してください。(宅配便は不可)

【郵送先】〒103-0013

東京都中央区中央人形町二郵便局留

電気通信普及財団賞事務局 受付番号××-×××^(注)

(注) 上記(1)①で取得した受付番号を記載してください。

※ テレコムシステム技術賞及びテレコム学際研究賞に応募される方は、必要書類を郵送するほか、当財団の電子申請システム (<https://taf.yoshida-p.net>) にアクセスの上、マイページを取得し、応募書類のPDF ファイルを提出してください。

5. 選考結果

2023年3月に受賞者の方に通知し、当財団のホームページ等に掲載します。

6. その他

- ① 受賞者には、当財団のホームページ等への掲載のための情報提供や、当財団主催のイベント等における受賞著作/論文に関するプレゼンテーションなどのご協力をいただきます。
- ② 応募に関し記載された個人情報については、法令及び当財団の内部規程に従い、適切に取り扱います。
- ③ 受賞者の氏名、研究論文、著作等の名称、賞金額について一般に公開します。また、これらの受賞に関する情報を公益財団法人助成団体センターに提供します。
- ④ 応募書類及び研究論文、著作等は返却しません。
- ⑤ 応募に際しては、応募時及び論文投稿時の著作者の所属、役職、学年を応募申込書の所定欄に記載していただきます。

【お問い合わせ】

電気通信普及財団賞事務局（土日祝は休業となります）

電話：03-3663-8024（受付時間：平日 10:00～17:00）

お問い合わせフォーム：<https://www.taf.or.jp/contact/>

e-mail：[tafcontact\(at\)icr.co.jp](mailto:tafcontact@icr.co.jp)（at）を@に変更してください。

※ 電気通信普及財団賞の事務局運営に係わる業務は、株式会社情報通信総合研究所に委託しております。

(参考)

2021年度第37回電気通信普及財団賞

<https://www.taf.or.jp/award/2021-37th-application.html>

(別添) 電気通信普及財団賞 テレコム学際研究賞の応募テーマ例

テレコム学際研究賞は、2021 年度に創設されたまだ若い賞です。テレコムシステム技術賞やテレコム人文学・社会科学賞には応募しづらい中間領域のテーマや、技術の社会実装における政策課題、社会的に認知されていない課題を問題提起するような文理融合領域における研究テーマの応募を期待するところです。

人文学・社会科学研究分野内の学際研究、システム技術研究分野内の学際研究については、各々、テレコム人文学・社会科学賞、テレコムシステム技術賞にご応募ください。

テレコム学際研究賞の研究例としては、第 37 回電気通信普及財団賞テレコム学際研究賞と特例表彰の対象になりました研究のテーマと審査員からのコメントが参考になると思います。

～研究のテーマ～

「Controlled Document Authoring in a Machine Translation Age」

本書は、単なる機械翻訳ではなく、外国人住民を対象とする自治体での各種申請書類に焦点を絞って、よりの確な文書作成の支援としての機械翻訳システムを提案しており、膨大な作業を伴う実用的な研究成果として高く評価する。今後、行政のデジタル化の中でこの種の申請手続はデジタルに移行していくことになるが、この支援システムが申請システムのデジタル化に組み込まれていくよう引き続きの努力に期待する。

「Gaze awareness and metacognitive suggestions by a pedagogical conversational agent: an experimental investigation on interventions to support collaborative learning process and performance」

本論文は、対面での協同学習においてお互いの視線・会話の重要性を、2 者間の視線情報のリアルタイムフィードバックと会話エージェントという支援システムを用い、オンライン学習においても重要であること、両者の相乗効果が大きいことを立証した点が高く評価できる。新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) によるリモートワークが日常化してきており、協同作業の効率化が喫緊の課題であるところ、タイムリーな研究であり学際研究として優れている。

「「Measuring “Nigiwai” From Pedestrian Movement」

本論文は、定点カメラの映像から得られる歩行者の移動軌跡をもとに算出される「賑わい」の指標を提案し、同指標を群衆シミュレータ Vadere から生成される軌跡データおよび実写ビデオ MOT16-03 と MOT16-04 に適用することにより、その妥当性を検証している。テレコム学際研究賞に値する本研究によって得られた成果が、日本各地に活気ある商店街を構築する手段として

広く活用されることを期待したい。

「Dynamic Hawkes Processes for Discovering Time-evolving Communities' States behind Diffusion Processes」

本論文は、拡散過程の代表的なモデルである Hawkes 過程を一般化した動的 Hawkes 過程を提案し、4 種類のデータセットを用いてコミュニティの状態の時間的変化を推定し、近未来のイベントを高精度で予測できることを示している。既存のデータセットだけでなく、自ら収集したデータセットでも検証を行った点を高く評価する。本モデルは新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行の情報拡散等の分析にも利用でき、有用な結果である。

「Unconscious Reinforcement Learning of Hidden Brain States Supported by Confidence」

人間は無意識の情報を利用して行動を決めているが、その無意識な情報は多次元でありコンピュータ等では極めて選択するのが難しいと考えられる。本論文は、世界で初めて fMRI と情報技術により無意識の神経情報を用いて人間は学習できていることを実験的に確認した論文である。技術的に優れるとともに、人間の認知、行動のメカニズムを明らかにしていき、さらにはロボットには出来て人間には出来ない事等、今後学際的に発展が期待される論文である。

「《小特集》さようなら、意味のない暗号化 ZIP 添付メール」

本稿は、メール添付時に ZIP 圧縮してから暗号化して送り、次のメールでその復号鍵を送る儀式は、技術的に有害無益と断じた啓蒙的解説集である。2020 年 11 月の平井内閣府特命担当大臣による廃止推奨以降も多くの官庁や企業で使われ続けているので、病根究明は情報セキュリティの運用に関する学際研究として最大級のテーマと考える。しかし、本稿は、普及理由、止めない理由の解明には踏み込めていない。真相解明に向けた今後の学際研究を期待する。

「微小重力空間での定位：宇宙飛行士による当事者研究」

本論文は、元宇宙飛行士が自分自身の体験に基づいて、宇宙 (ISS) での滞在が人間の身体・心理にどのような影響を与えるのかについて、そのような経験を持ちえない一般人にも分かる形で論じている。これまで宇宙について自然科学的・工学的な論文・解説は数多く公表されてきたものの、当事者が日記や ISS と地球との SNS の内容を分析するまでに至った例は見当たらない。個々のデータの分析手法そのものについては指摘すべき諸点が見られるが、提唱している仮説は興味深く、今後の検証が待たれる。民間宇宙旅行など一般人を対象とした宇宙ビジネスに関心が高まるなか、情報通信技術がますます重要な役割を担うことを示す一例として評価できる。